

教育目標	社会の変化に対応できる しなやかでたくましく生きる力の育成
めざす生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の大切さと共に他の人の大切さを認める生徒（自分も大事，相手も大事） ・一步高みを目指し，努力できる生徒（常に一步前進） ・学びを生かし，問題解決できる生徒（知識は生かすためにある） ・多様な価値観を認め，協調性のある生徒（みんな違って，みんないい）
実態把握	<p>【強み】・ペアやグループでの学び合いの活動に意欲的に取り組む生徒が多い。</p> <p>【弱み】・自ら課題解決に向かっている当事者意識が薄く，進んで思考を深める姿が少ない。</p> <p>・学習規律を守ることのできない生徒がいる。</p>
育成をめざす資質・能力	主体的に学ぶ力
研究主題	主体的に学ぶ力の育成 ～学習指導と生徒指導を意識した授業づくりを通して～

研究の重点と共通実践

(1) 学校研究の重点的取組

- ① 共通の軸をふまえた単元デザインの工夫
 - ・委ねる時間や自己決定できる場面を単元に位置付け，見取りと支援，価値づけを行う。
- ② 自己決定の場や委ねる時間を通して全員が自分の考えをもち，交流・発表する場面を設定する。
 - ・生徒が当事者意識をもつことができるよう，意図的に場面設定を行う。
- ③ 自己決定の場や委ねる時間の中での見取りと支援，価値づけを行う。
 - ・生徒を見取ることのできるような支援が必要なのか，手立てを考え，効果的な価値づけを行う。
- ④ アクティブリコールで，生徒同士で問い返したり，教師が価値づけを行ったりする。
 - ・N-time や NS-time，アクティブリコールを実施し，対話をもとに学力を育む。

検証方法

- (1) 学力調査（全国・県・到達度・地域学力・定期）の経年比較を行う。
- (2) 主体性・支持的風土に関する生徒アンケートでの生徒の自己評価による状況を確認する。

学びの集会

七尾中学校の学びや現状，大切にしていきたいこと等について，生徒と教員で共通理解するために，「学びの集会」を実施する。

基礎学力の向上

NS-time（テスト前の昼休みに生徒同士で教え合う勉強会）や $+\alpha$ （アルファタイム：終礼前の帯学習）の時間で少人数学習を実施する。

共感的な人間関係力の育成

N-time（グループで話し合う活動）や授業や生活での生徒同士，教員から生徒への価値づけ

終礼での授業の振り返り（アクティブリコール） 昨年度より継続

終礼時に1日の授業の振り返りのアウトプットの時間を設定し，ペアで本日の学びを伝え合う。

例：今日の●●では▲▲を学び，■■ができるようになった。（■■がわかった。）

「今日は1限目の英語で関係代名詞の who の活用法について学び，人物を紹介できるようになった。」

「2限目の数学では因数分解の方法について学び，一番よい解き方を選べるようになった。」

※昨年度から上記に加え，「なぜそう思った?」「具体的には?」「理由は?」「次は何を学びたい?」といったような様々な問い返しを行い，更に深い記憶の定着を目指しています。